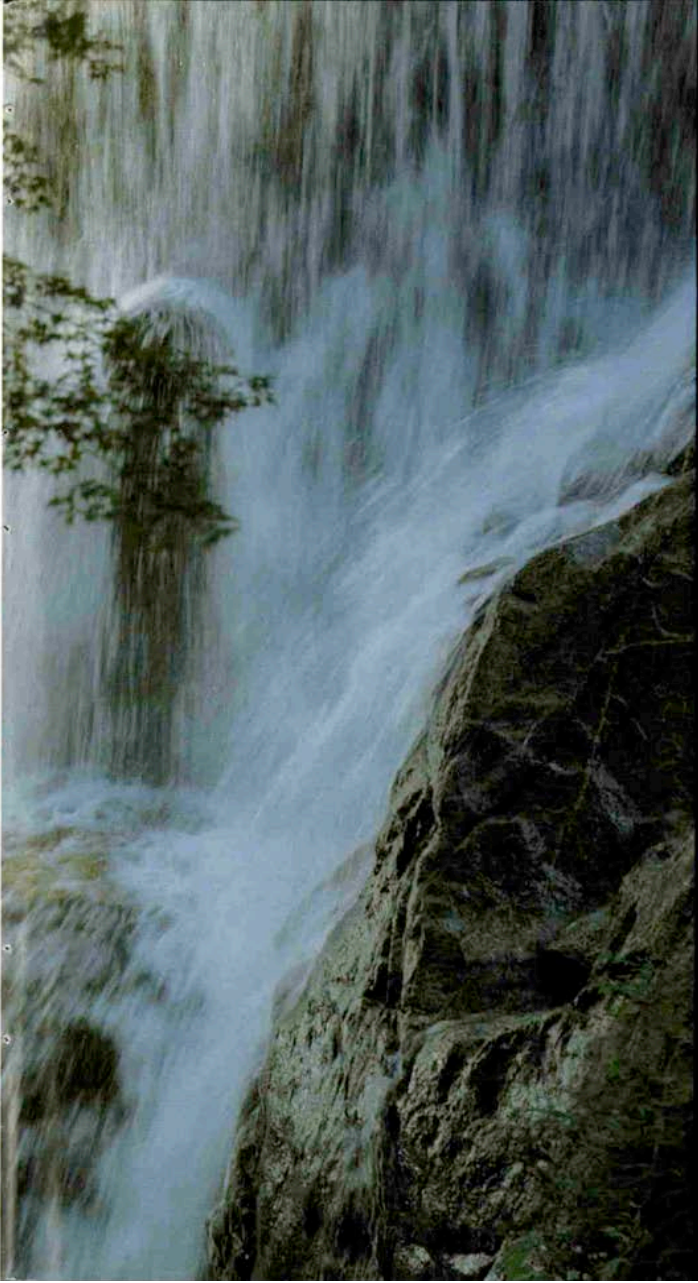


# 神戸の風色

KOBE ● FUSHOKU

堀内初太郎 NO.7







夏の思い出が一ページ



POETIQUE

KOBE  
まさ

- 神戸 さんプラザ店  
さんちか店  
須磨パティオ店
- 大阪 千里阪急地下街店  
阪急ファイブ  
西武高槻店  
泉北パンジョ店
- 宝塚 阪急ファミリーストア店
- 大津 西武大津SC店



COSTUME &  
ACCESSORIES

GEIMU

無感動はイヤッ。大胆に。

KOBE  
TOR-ROAD, ANNOMIYA  
(078) 331-5393  
SUN PLAZA 3F  
(078) 331-3847  
CENTER PLAZA 1F  
(078) 331-4836  
SANTIKA LADIES TOWN(LIDO)  
(078) 331-0150

SAPPORO  
TOKYO  
HAMAMATSU  
NAGOYA  
GIFU  
KYOTO  
OSAKA  
FUKUOKA

James S.



大丸前にいらっしゃいませんか?  
「宝石のある小さな並木道」へ。

- 1F** 金と銀のアクセサリ  
製造直売システムの真珠製品  
宝石とヨーロッパのエッセンチュドールの貴金属
- 2F** 銀製品とメンズアクセサリ  
(スイスのシュールツオリジナル)  
結婚リングとダイヤモンド

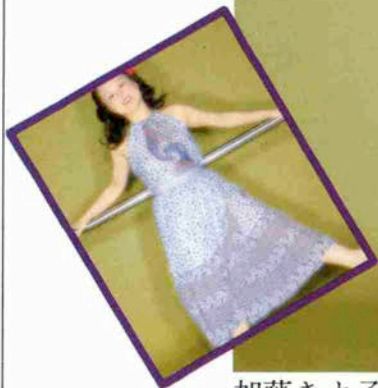
7月27日までオープニングカーニバルを実施中。創業70年を  
迎えたシュールツの、とっておきの逸品をご用意いた  
しました。思いきったお値段で感謝の気持ちを競います。



W.F. SCHULZ  
シュールツ宝石店

大丸前ファッションアイランド  
K O B E ☎(078) 331-2402  
営業時間 10AM~7PM

VIVA COTTON  
VIVA SUMMER!



加藤きよ子さん(モダンダンサー・今岡頌子バレエ団所属)

 *ladies watanabe*

三宮町1丁目ニューセンタービル入口 TEL(078)331-1650 10:30AM~7:00PM 水曜定休

Photo./Yasuyuki Fujiwara



バスルームへ駆けこんだ。  
僕たちの朝が、始まった。

コックをいっぱいひねった。勢いよくほとばしる冷たいシャワーが汗ばんだからだに心地よい。熱い何かを全身にみなぎってくるのを感じる。こんな朝だ。なにもかも、うまくいさそうな気がするの。

●朝のシャワーには、言葉でいい表わせない快感があります。この気分を、きょう1日、そして365日、味わうことができれば一朝のような、すがすがしい毎日の暮らし—大丸がお手伝いします。

いい朝にしたい。  
ステージ80



神戸もとまち  
**大丸**  
電話 (078) 331-8121



これは神戸を愛する人々の雑誌です  
あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の手帖です

## 7月号目次 1980・No. 231

表紙 / 小磯良平

セカンドカバー / 僕の見た神戸 (19) / 西村 功

- 9 神戸っ子 80 / 前田香織 / 入江 勉  
13 ある集い / ミモザひろのグループ  
15 コウベスナップ  
16 画人・神戸 (7) / 須田剣太  
18 神戸の風色 (7) / 堀内初太郎  
29 私の意見 / 吉田 勇  
31 随想 / 佐野弘利 / 林 愛美 / 吉田 博  
34 ある集い その足あと / 広野佐多子  
36 連載エッセイ・私のひろいもの (17) / 竹中 郁  
38 神戸歳時記 (7) / 文・三枝和子 / 絵・元永定正  
40 インタビュー (1) / 浦山桐郎  
42 インタビュー (2) / 堤 剛  
45 地域文化論 (11) / 多湖敏樹  
46 キャンペーン・国際文化都市神戸を考える (33)  
映像、音楽、展示に趣好を凝らした博覧会  
清川良雄 / 清水昭一 / 岡岡 真 / 松田二郎 / 菱井良一  
54 ポートアイランド情報  
56 経済ポケットジャーナル  
58 特集 / 県立近代美術館10周年を迎えて  
随想 / 充実した10年の軌跡から / 赤根和生  
ルポ / 県立近代美術館10年の歩み  
67 座談会 / 25年ぶりに帰国した右近雅夫を囲んで  
右近雅夫 / 加藤龍吉 / 伊藤隆文 / 末広光夫  
72 座談会 / カナデアン歌舞伎を守る会をつくらう  
長島 隆 / 松井一郎 / 佐藤 廉 / 加藤隆久 / 中尾 襄 / 海野光子  
/ ロス・グリア  
76 コウベ・ファッション・スポット  
82 第10回神戸まつり / 創るよろこび、二百万人が参加した  
一万三千人のパレード  
京谷利祿 / 松原泰代 / 森 哲也 / 美和沙織  
86 NEUE MODE MARCHEN (31) 篠原順子  
102 神戸美術散歩・ギャラリーマップ  
106 北野町ガイドマップ  
108 北野町ガイド  
113 神戸の催し物ご案内 (7月)  
114 動物園飼育日記 (176) / 亀井一成  
118 話題のひろば ①ファミリアが創立30周年②劇団神戸10周年  
121 ノコちゃんの華麗なる食べある記 (19) 小山乃里子  
コバカバーナ / プラン ドゥ プラン  
124 六甲山100コース①垂水縦走青山コース / 川口陽之  
②垂水縦走田園コース / 坂本 徹  
128 バントマイムジュネズII・7 / 岡田 淳  
130 神戸を福祉の町に (79) / 橋本 明  
132 ファッション・レポート / 神戸キモノ着付け学院 / 河崎 聖  
135 神戸の集いから  
136 私の映画手帖 (31) 淀川長治  
138 女性百景 (95) / 細川 薫  
141 神戸百店会だより  
143 ぴっといん  
144 ポケットジャーナル  
148 新連載小説 / 暗葉樹 / 刀瀬喜美子 絵 / 南 和好  
154 連載紀行 / 泰足のアメリカ (2) / 蒼 竜一  
159 トーク&トーク / トラベルコーナー  
160 編集後記  
174 再びアルファベットアベニューの「N」 / 新井 満・石阪春生  
176 海・船・港 / ヨットで世界一周に挑む堀江謙一・袴子夫妻  
カメラ・米田定蔵 / 藤原保之 / 橋本英男 / 後藤 孝 / 速水 享  
目次作品 / 木下佳通代

Kazuro Kuroshita



● スギヤお店めぐり  
〈宝塚店〉

明るいファッションカラーに  
人気があります。



「シーズンを通じて明るいカラーが中心です。Tシャツにスカートそしてアクセサリというようにトータルなコーディネートをお勧めしています。」

と語るのは宝塚店々長の宇留嶋和子さん。お客さまはヤングミセスの方が多く思いきったお洒落感覚をお持ち。それだけアドバイスにも熱が入ります。“カジュアルからドレスシーと豊富な商品から気に入ったものを選べますネ”と宝塚界限でも人気の高いお店です。



LADIES' WEAR KOBE OSAKA TOKYO

**SUGIYA**

本店 神戸トアロード 電話078(331) 3436

名谷店 名谷須磨パティオ 電話078(792) 6066

阪急神戸店 阪急百貨店神戸支店内 電話078(321) 3521

六甲店 阪急六甲駅ファミリーストア内 電話078(871) 2733

芦屋川店 阪急芦屋川駅ファミリーストア内 電話0797(31) 8193

宝塚店 阪急宝塚南口駅ファミリーストア内 電話0797(73) 1244

梅田阪急三番街・心斎橋バルコ・成橋ホリディンスクウェア・西武大津店・池袋バルコ・西武宇都宮店

鳥になった。魚になった。そして、人に帰った。

リザ・サロン	美呂
ルイ・ミッシェル	CAN
CABIN	ゲルラン
フランス・アンドルヴァ	東京屋
ジョージ・ジュ・レッシュ	高野
ダイアナ	BONフカヤ
Pia	ザ・コレクション
ルベール	ココ山岡
ランプ	三愛

FASHION  
PARK

神戸・三宮さんプラザ・センタープラザ3F



《そごう》が選んだ  
陶器の粋

題字 望月美佐



人間国宝 近藤悠三作・金泥面取壺(高さ25.8cm・経27.5cm)

●写真作品についてのお問い合わせは美術画廊(6階)内線655までご連絡下さいませ



7月の画廊催しご案内 ●美術画廊(6階)

●8/27日金 ↓ 2日木

●8/25日土 ↓ 9日木

●8/10日木 ↓ 16日水

●8/17日木 ↓ 23日水

●8/24日木 ↓ 30日水

小川武雄

作陶展

■古刀から現代刀まで  
日本刀剣展

■第3回  
現代人気作家版画展

■鑑賞和上像お墨唄りにお供して  
武井洋右墨彩画展  
フランス絵画  
名品展

☆私の意見

# 新生三ノ宮駅を 市民交流の場に

吉田 勇

△国鉄三ノ宮駅長▽



国鉄三ノ宮駅の駅長として神戸に来てまだ日も浅く、一生懸命神戸について勉強しているところです。現在、駅ビル、新交通システム、そしてポトピアの三つのことに関わっていますが、駅ビルを建設するための、国鉄関係分は、昨年度でいたい終了しました。まだ開いがあるのです、見えませんが、あと化粧直しをするだけという段階です。国鉄三ノ宮駅の西口は、阪急三宮駅の改札口と隣接していて、それぞれの乗降客だけでなく、通過する人たちも多いのですが、その割には通路が狭すぎるので、拡張したいと考えています。これは未だ計画の段階です。全部完成すれば三ノ宮駅も面目一新というところです。神戸ポトピアランド博覧会の玄関口ですからね。

博覧会の入場者数も、当初の六百万人という予想を大きく上回り、一千万人を越えそうですが、それがみんな三宮に集中するわけですね。これだけの人が一カ所に集まるのは、関西では昭和四十五年に開かれた万国博以来ですが、当時、私は管理局の旅客課にいまして、旅客輸送の直接の担当でした。来春の博覧会も当然混雑が予想されますが、かつての経験を生かして、少しでもスムーズな運営ができれば、と思っています。

ポトピアの開幕とともに、三宮は新しく神戸の顔として生まれ変わりますが、これをよい機会にして、国鉄三ノ宮駅が、単なる通過点ではなく、市民のコミュニケーションの場になればと思います。つまり、鉄道の中継点、乗降の場という機能的な意味での「駅」の利用者だけでなく、ショッピングや観光に神戸を訪れる人たちが、足を止め、談笑する——そういった憩いの広場として、市民の皆さんにも活用していただきたいわけです。もちろん博覧会の会期中だけでなく、その後もずっと、親しんでいただける市民の交流の場として、新生三ノ宮駅に期待してください。

(談)



美術骨董品が大好きで  
庵庵はお気に入りのお店です

ANAN

あんちっく  
シリーズ

8



あんちっく AN AN

庵庵

●7月のゲスト●

BRUCE A. BLOMSTROM  
〈日本アボット株式会社専務〉

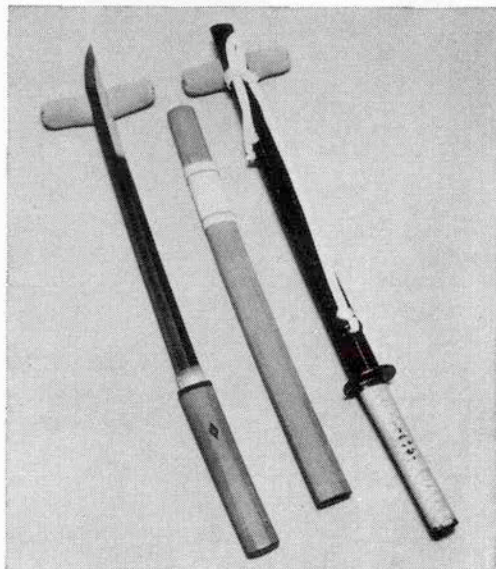
ANNE BLOMSTROM

神戸市生田区三宮町2丁目1番5号  
センタープラザ西館3F306号

中尾 忠義 ☎392-3471

アメリカから日本にいらして  
1年半。カナディアンアガミ  
イに通う二人のお子さんと神  
戸市灘区にお住まいです。

# 刀剣 古美術



脇差、拵つき 銘/河内守国助(初代)  
刃渡 56.8cm (1尺8寸8分) 特別貴重刀剣認定書  
特別提供価格 ¥2,000,000

毎月20日 無料鑑定  
研磨、白サヤ、その他工作  
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

刀 剣 元町美術  
古美術

神戸市生田区元町通6丁目25番地

三越百貨店東へ150m 商店街山側

TEL 078-351-0081

# 随想



カット/佐野弘利

## チュニジアの旅

佐野 弘利

△洋画家・二紀会同人△



今年はどうしても北アフリカへ旅をしたいと考えていたところ、チュニジアのツアーが舞い込んできた。早速申し込んだが、しばらくして人数不足で中止。がっかりしたが、逸る気持ちを押し切れず、今まで一人でヨーロッパ、モロッコを旅しているので、今さらツアーでもあるまいと決心、大阪のある旅行業者に大阪―パリ、パリ―

チュニシスの航空券を依頼したところ、第一声は「へー変わった所になれるまん」とのこと。兎に角日本にはチュニジアに関する地図もパンフレットもない。パリまでいけば何かあるだろうと出発した。パリでも大したパンフレットも手にはいらず、チュニシスに着いたが、なんとかなるものである。

首都チュニシスにかぎらずアラブ地方のどんな町でもメジナという地域があつて迷路のようになつていて人と店がぎっしり。歩いていても何回も品物を押し付けられる、刺出しの商魂があり、アラブの素顔があつて面白いが、とてもスケッチなど出来るものではない。兵隊が二、三人居たので、ここは美しい、スケッチしてもいいかと尋ねる。描き上がるまでついていてくれたのでその時はうまく

いったが、メジナの入口の城門をスケッチしていると、ばらばらと子供や若者が集まつて来て前に立つ。かつてヨーロッパでも沢山スケッチしたが、人が見にきて後ろに立つので邪魔にならなかつた。前に立たれると目的の風景が見えなくなる。どこでもお節介がいるもので、一人のおっさんが「のいてやれ。のいてやれ」といっていたが、その内二十人近く集まり、おっさんもうにもならず私もスケッチを途中で止めてしまふ。「私は絵かきだ、これが仕事だ、邪魔しないでくれ」といっても利きめなし。チュニジアでは先進国に追いつけ追い越せで、かなり教育に力をいれているが、学校では美術つまり図工という教科がなく、絵を描くことが仕事だ勉強だといつても全く理解できないのである。

チュニシスから飛行機でサハラ砂漠のオアシス・トズールへ。首都チュニシスとがらりと風物変り、野性的で女の衣裳も白から黒と赤に変わり強烈だ。車も少なく、男達がラクダに乗って苜草を運んでいる。更にバスで三十分ネフタに行つた。トズールよりまだ田舎で静かな、ひなびた町である。子供や女は素足が多く、ラクダがのんびり草を食い、牧童は砂の上で昼寝、カメラを向けても何もいわず、後



で五十ミリ(三十円程度)やるとここにこと観光擦れしていない感じ。子供にレストランを尋ねると前まで案内してくれた。「スープがある」という。トンガラシの利いた中に表のような雑穀が浮いている程度。黒いパンをちぎりながらスープをすすする。飲み物もなく、サラダもない。たった一品だけである。今回のチュニジアの旅で一番困ったのは食べ物で、何を食べても進まず、もう一口という所が利かない。若い頃と違って、その土地の食べ物が適応しなくなっただけか、経済大国日本にいて口が贅沢になってしまったのかもしれない。

## 絲綢之路

林 愛美

▲ニューチャイニーズオーナー

リンズギヤラリーアイベロップ

神戸という街はシルクロードのオアシスである。もちろん気候風土は全然違うが、西洋と東洋の文化がやさしく溶け合い、自然と神戸っ子の体質の中にこの融合が静かに進んでいるように思う。

私は去年の秋、北京から飛行機で六時間足らず、二、〇〇〇kmも離れた砂漠の都市烏魯木齊(ウルムチ)を訪れた。ヨーロッパやアメリカには何年間か住んだ経験が

あったが、中国人でありながら、不思議と中国へ帰るといふか行つたのは初めてで、雑種文化を吸収した私の中にある中国というものが急速に加速度をつけて湧き上るのを覚えた。西洋と東洋の血を受け継ぎ、鮮やかな色模様の服を纏った魅力的な美しいウイグルの女性が極彩色の絨毯を織り、灰色の世界の中で強烈なコントラストを私に印象づけた。法頭も玄髪もこれほど美しい女性たちの色香に惑わされずに天竺まで到達し、經典を持って帰って来れたことが信じられない気持ちでもあった。

北に天山山脈、南に昆崙、カラムの両山脈、その間にはさまれているタリム盆地、そこにはタクラマカンの砂の絨毯が敷きつめられていた。果てしない地平線に杳然と立ち尽す私には、砂と闘い、営々とポブラの防砂林をつくり、何千年もの間に亘って肥沃な土地に変えようとする人々の努力にただただ感服し「愚公山を移す」の

故事の通り、人間と自然との闘いと融合にもっとも感銘をうけた。ウルムチとはモンゴル語で「美しい草原」という意味である。天山北麓のウルムチより天山南側の火の国吐魯番(トルファン)を訪れた。海面下一五四mの街で強風が常に砂塵を舞い上がらせ、漢代の「交河故城」、「高昌古城」の遺跡がいつまでも私の心に残影として残る。

天山の雪解け水がつくった「馬奶子」(マーナイツ)という名の甘い甘いぶどう、一抱えもあるメロン、哈密瓜(ハミミクウア)、ギリシアで食べたシシカバブと同じ味の羊肉の料理、シルクロードの実感はやはり舌からであろうか。二週間の旅は北京でピリオドを打った。私はシルクロードの魅力に取りつかれたまま、五月にローズガーデンに中国の生活をつめこんだ「ニューチャイニーズ」をオープンさせ、来年四月に向け北野坂「リンズギヤラリー」をディベロップしている毎日である。

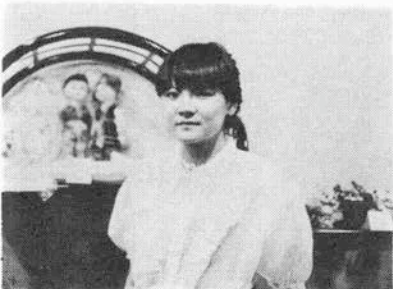
●ニューチャイニーズ/ローズガーデン B  
1 ☎078-1222-15792

## 古い教科書

吉田 博

▲神戸市立港島小学校校長  
前パリ日本人学校長V

かみ袋を開いてビックリし「こ



5月29日オープンしたニューチャイニーズにて



現地校生徒を迎えたパリ日本人学校（1979年12月）

れ私一人にいただけのの」と来校のフランスの子どもがいった。

パリの現地校は閉鎖的なため今までは、交流がなかった。これではフランス教育から学ぶこと、国際親善のためにも姉妹校の三校位は作らなくてはと考え、大使館より仏国文部省に働きかけたり、現地校より転入して来た子どもも、また、転出して行った子どもを通じ交渉した。度重なる毎に友好的に、教師は勿論生徒も交流した。

ある日の午後、現地の小学生を五十人余り招き、各学級に配分して折鶴や、音楽、図工と一緒に学習した。その後私の学校の子どもも交え、全員を一堂に集めた。おやつを与え、話し合いをした。冒頭の言葉はその時の声であった。するとフランスのマダムのディレクターが、「ノン、それは学校に持ち帰って皆と分けます。ここ

ではジュースをいただきなさい」とカン高い声でいう。そこで私が「あなた方にどうぞ、学校の皆さんには色紙を土産に持って帰ってもらいます。それは開いて食べなさい」というと、さもうれしそうに食べはじめた。フランスの子どもは日頃、袋のままおやつをもらうことはない。ウイスキーボンボンなら一つもらっても大変なことなのだ。ビスケット何枚という程度である。日本の子は、きよんとしながら大きな口をあけて菓子ほうり込むのである。

☆ ☆ ☆

パリのアパルトマンの廊下は、たとえ誰かが点灯しても二分か三分で消えてしまう仕掛けのスイッチががついている。

家庭も天井からの電灯はシャンデリアで、飾りである。読書時や食事時はうす明るいスタンドによるのが常識である。現地校の教室もうす明るい電灯の下で小さな横文字の活字を読んでいる。パリ日本人学校は旧大使館を使っているのが割合明るかったが、ルクスを調べ思い切った蛍光灯を増やした。するとオーバークヒートしてボヤを起し消防車が二台飛んで来たことがあった。その後全館配線を変えてやれやれと思っていた矢先のこと。

パリでは秋から冬にかけて急に

日が短くなり一日中点灯するのが常である。

そこに近所のアパルトマンから電話がかかってくる。「明る過ぎる。空の教室にも煌々と電灯がついている。フランスのエネルギーを無駄にするなジャポネ、気をつけろ」と再三かかってくる。ある時は配電会社からも注意を受けた。

☆ ☆ ☆

ビニールでカバーした小一の国語の教科書、堅表紙、アート紙のような分厚いページにカラフルな挿し絵が入っていて立派な本だったが、よく見ると相当傷んでいる。持ち方が悪いとページが脱落しそうな古本だ。奥付を見ると「一九六八年フランスで印刷」と書いてある。十年余り受け継がれてきたわけだ。いたずら書きもなければ、ページの隅のささくれもない。「教科書を汚したら耳をひっぱられ頭をたたかれる」という。

フランス人がけちで縮まり屋なことは国際的にも有名だ。新しいものはいいのものという「新品信頼」を持っていない。無駄はしない。使えるものは、とことんまで使う。それは、大人になると誰からいわれるまでもなく、自分のこととしてやっている。日本は果たして裕福な国なのだろうかと思



□ある集いその足あと

ミモザ

ひろのグルーブ

広野 佐多子

△ミモザひろのグルーブ主宰▽

汐風の香りが街中に漂い、バター臭いオレンジ色の太陽の日ざしが一層よく似合う神戸——。

そんな美しさに囲まれた街々には永遠に咲き誇る布花がなくてはならないものになっています。

神戸で生まれ育って五十年余の私も、神戸を愛し続けてきた生粋の神戸っ子です。生来、花が大好きでもう十数年前、まだアートフラワーという言葉がこれほど世間で耳慣れない頃に、習ったのが初めての出会いです。当時アートフラワーはぜい沢なおけいこだという観念があったようでした。

実母が他界し、娘も嫁ぎ、何か物足りない毎日を通こうすうち、再び染色布花に開眼しました。

生花には生花の良さがあります。私にとっては以前から染色を手がけていたこともあり、一から自らの手で創ることの喜びが大きいのです。それは手塩にかけて育てあげた子供のようであり、創りあげた一本一本に限りない愛しさを感じます。

染色布花アートに夢を燃して、

尽きることはない花材に魅力を感じた方達が、一人寄り、二人寄りして、今では数十名が集まって布花創りを始めたのが私達のミモザひろのグルーブです。

決しておけいこ場という雰囲気をお忘れなさい、この集いの場所には今ではキヤリア、年令など関係な



岡山県の津山でオリジナルコレクションを開催した時の会場風景

しに話題もはずみ、週一度のおけいこ日が待ち遠しい集いとなったようです。

時には可愛いお嫁さんのブーケや新築のお部屋のインテリア、ブティックなどのディスプレイなどにお花を飾られ、布花を通じ和の広がりゆくの覚えます。

おけいこ場には、それぞれ各人花題も違い、あちらの席はチュールリップ、その隣ではフリージアな

どと三人三様のお花が、まるでお花畑にいるような錯覚を持つこともあり、「アッ、今度は私もあの花を創りたいわ」

と、いう声も飛び、楽しい楽しい一日が終わります。ミセスが中心ですが年代の幅も広く、おしゃべりの中から私自身、学ぶべきことがいろいろとあります。時には旅行を計画したり、一緒にショッピングに出かけるなど、いわゆる文化教室的な堅苦しさが全くありません。

自宅をおけいこ場に始め、昭和四十九年にミモザグループに所属し、三年前から交通に便利な元町文化学院にもおけいこ場が増えました。私達は二年に一度のコレクションを行います。昨年はオリエンタルホテルにおいて盛大に開かせて載きました。お花を愛する方々に一人でも多く見ていただけたら嬉しいと思います。

来年はポートピア'81に因み、ささやかなお祝いの行事として、布花コレクションを企画しています。染色布花を染しむお友達を増やし布花ばかりでなく、美しいお花に夢を持ちつつ、和を広げていきたいと心のつきぬ想いが一杯です。

△お問い合わせ▽

〒651-1113 神戸市北區東大池2丁目5

123 ☎078-1981-15296 広野佐

多子

# オリエンタル レディスクラブ

会員募集中



オランダ総領事館協力による  
オランダ料理のグルメの会

年会費：お一人 5,000円

割引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル  
での宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたし  
ます。その他いろいろの特典がございます。

特別催：随時、会員のための特別催しをいたします。

お問い合わせ

オリエンタルレディスクラブ事務局

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内

☎(078)331-8111

# さわやかな夏のメッセージ



まごころを伝えるユーハイムの味と香り



当社はユーハイムコンフェクトとは関係ございません。混同されないようご注意ください。

ドイツ本店・フランクフルトゲーテハウス内 TEL(0611)2062  
本 店・三宮生田神社前 TEL(078)331-1694  
三宮店・三宮大丸前 TEL(078)331-2101  
さんちか店・三宮地下街スイーツタウン内 TEL(078)391-3539  
そ の 他・全国有名百貨店のれん街 およびユーハイムショップ



□連載エッセイ／私のひろいもの△17▽

# 元祖ナオミ 御健在

竹中 郁 △詩人・絵も▽

現今の男子は、きたなく見せる流行がすきかして、髪は蓬々、櫛も入れないで出歩く。あれで人前に立つ職業にたずさわってもいるらしいが、考えれば厚顔しい流行だ。

五十年前以前、神戸の帝國酸素はフランス人の支配下にあったせいとか、社員に「やつし」が多かった。今なら「おしゃれ」というだろうが、おしゃれとやつしとは少しちがう。身ぎれいにする趣味に加うるにやつしの方には色気の度合が多かった。色事上手な要素がよかった。

支配人のメルキオル氏の向うを張るように、日本人の猪飼氏、和島氏とつづいていた。その猪飼氏がわが家のつい近くに住んでいて、部下の和島夫妻がつれ立ってよく遊びに来ていた。猪飼夫妻も、みな共に東京弁のあくぬけした方々で、よくわ

が家の電話を借りにきた。当時は電話が少なく公衆用のなどはどこにあるか分らぬくらいだった。

そんなわけで、和島夫人が「痴人の愛」の主人公ナオミだという素性がわかった。色白で中肉中背、当たりのよい奥さまといった風情だった。

谷崎潤一郎はねっからの小説家だから、モデルとして捉えたおせいさん（これがナオミの実名）を描くのに自由活潑で妖気ただよう伶俐な女として存在させてある。しかし、モデルの方はそれほどではない。

そういう特性はやはり内包はされてあって、そうそう誰もかれもに露出してみせてはいなかった。

とにかく、しかし「痴人の愛」という小説が傑作とはいえぬまでも、大正末期の問題作だったと



ころから、ナオミという酒場や喫茶店が日本国中の都会に生れたり、当時はやりだした社交ダンスのダンサーの源氏名に使われたりした。テレビタレントの佐良直美もその流れの一しずくだろう。

その「ナオミ」のおせいさんが生きていて、神戸へ立寄った。ほんの三十分ばかり西村コーヒ店の北野店で話を交した。

して述懐してみせた。タイの白子のシーズンだから、それをたべたらよかったのに、というとまた来るわよ、その時つれてって、とあっさり残念そうだった。

ナオミとして谷崎さんに描かれたハイカラ加減は八十歳になっても残っていて、うすら寒いことの五月のために着ている上物のコートは身に合



みたところ、四十キロくらいのやせぶり、腰が少し曲っているが、歩くと走っているようにみえる速さで、しゃべると昔ながらの雄弁だ。夫婦とも八十歳で、まいにち長唄のけいこをしてくらしている。達者なのも無理はない。ちょっと明石まで一走りして、タイヤズズキを刺身にしてもらってたべてきた。やっぱりいいわね、おいしいわね、と何十年前前にこちらで暮した有がたさを思いだ

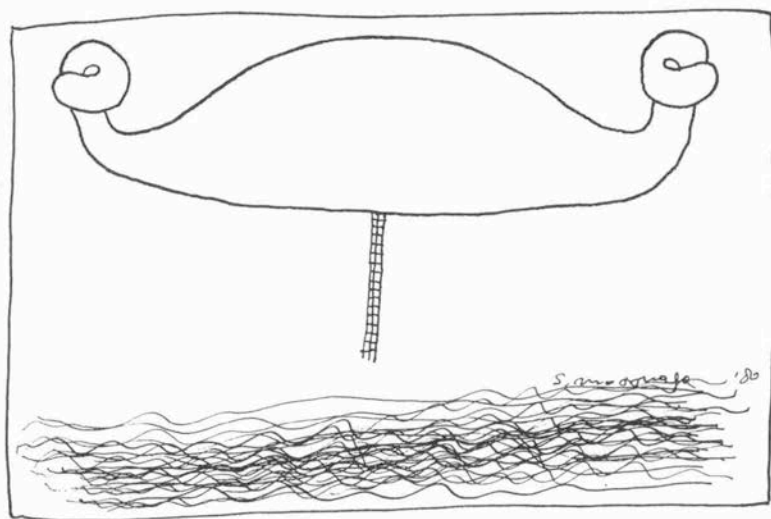
って一そうバタ臭く、そのやせてとんがった形の鼻やアゴ、かぶっている帽子のとり合せが、とんと箒にまたがらせたら空をとんでゆくにちがいないと思わせた。

小説の中で、羅紗のマントを素肌じかに着て鎌倉だか逗子だかの浜へランデブに出かけたナオミの、これが今日の姿だった。歳月のながれのおもしろさだ。



# 茅輪祭連想

三枝和子（作家）  
絵／元永定正



私は鳥居が海にむかっている神社が好きである  
敏馬（みぬめ）神社もその一つで、今は車の往来  
の頻繁な道路に遮ぎられて、海との繋がりが断た  
れているが、昔はおそらく鳥居は砂浜にあったの  
ではあるまいか。

神社では七月十三、十四の両日、茅の輪神事の  
夏祭が行われる。直径二米ほどのチガヤで作った  
輪をくぐる厄除の神事で、ひと形に名前、年令な  
どを書いてお宮に納める。茅の輪くぐりの夏祭は  
他にも兵庫区西柳原町の蛭子神社、敏馬神社の近  
くの船寺神社でも行われていると聞いた。

以前、といっても昭和二十五、六年の頃、市立  
上野中学で教師をしていたときがあった。現在の  
上野中学はどんなふうになっているのかわらない  
が、当時は福住小学校に同居していて、阪急の西  
灘駅から少し北にあった。

あまりよい思い出はないが、担任のクラスに  
嫌学の長期欠席生徒（いまなら登校拒否というの  
だろう）が居て、家庭訪問に国鉄灘駅の近くまで  
出掛けた。訪ねて行くと家中留守で、近所の人  
が、その子は多分、岩屋のマーケットあたりをぶ  
らついているのではないか、と言う。やっと見付  
け出して海岸を散歩しながら一生懸命説得したが  
押し黙ったままである。思春期の反抗的な少女  
は、学校を出たばかりの新米の先生にはなかなか  
難しい補導であった。ただ、やけに熱い照り返し  
と鮮やかな海の色を長い時間歩いたことだ  
けを覚えている。

いまから思えば、丁度敏馬神社のあたりを往復  
していたのだが、そのときは何も知らなかつ  
た。神社は二十年六月、震災によって焼失して、

そのときはまだ復興されていなかった。鳥居や灯笼などはあつたに違いないが、記憶に残していない。

その後、教師を罷めて小説家になり、幾つか神戸を書いた作品のなかで「摩耶埠頭」というのがある。これが敏馬浦であるが、私は市電に乗って終点の脇浜へ行き、そこから先の海について書くうと思っただけで、脇浜、というのが神社の脇だからそう呼ぶのだということも、この岬一帯が敏馬浦と言われた神戸港発祥の地であることも、実は知らなかった。しかし地縁というのは不思議なもので、何となく勘が働いて、そうむやみなことはしないらしく、「摩耶埠頭」では海を眺めて毎日自分の魂を殺す詩人の話を書いた。御存知だろうか、敏馬浦は詩歌に縁があるのである。

珠藻刈る敏馬をすぎて夏草の野島の崎に舟近づきぬ

「万葉集」に載っている柿本人麻呂の歌でこれは境内に歌碑として建てられている。

八千鈔の 神の御世より 百船の はつる泊と  
八島国 百船人の 定めてし 敏馬の浦は  
朝風に 浦浪さわぎ 夕浪に 玉藻は清よる  
白沙 清き浜辺は 行き還り 見れどもあかず  
うべしこそ 見る人ごとに 語りつき 偲びけ  
らしき 百世へて 偲ばえゆかむ 清き白浜

(田辺福麻呂・万葉集)

「ご本殿のある高台は、その昔スロープをつく

って海中に突き出た岬で、その両側は入江になって」「大正のころまで、この地は白砂青松の美しい海浜で、古来より多くの人々の心の憩いの土地でもあった」と神社の縁起には紹介されて居り、他にも藤原定家、兼好法師はじめ、多くの人々の歌が残されている。

しかし私の小説の主人公の詩人は、このような美しい風景のなかに、のんびりと生きているのではない。殺伐としたコンクリートと、ジェラルミンのコンテナの箱に囲まれ、ぎらぎらと暑い夏の陽差しのなか、摩耶埠頭で働いているのだ。自分の美しい魂が、毎朝、いつも新しく殺される、いや、毎朝、いつも新しく自分の魂を殺さなければ今日を生きていけないと確認しながら生きているのである。私は、ここで、いわば現代の不幸を書いたつもりだった。それが偶然、敏馬浦の古えの美しさにむかって無意識に通底していた――。

夏祭の話だってそうだ。過日、神社にお詣りして厄除神事の日を確かめながら、何故か、ふいに昔、補導しそこねた少女のことを思い出したのだ。補導の方の日付は覚えていないが、学期末テストで学校が午前中だったのを利用したのだから丁度その頃だ。

無論、少女と茅輪祭は何の関係もないかも知れない。しかし数えれば四十を超えている彼女が、いままあの近辺に住んでいて、子供を連れて夏祭に出掛ければ、遠い日、下手なお説教をした新米先生のこと、意識の端をよぎらぬでもない。そうしたことどもを懐しく思いめぐらすのも地縁と季節に連なる想像の楽しさではあるまいか。